

Unica Campaign V12.1 リリース・ノート



目次

第 1 章. バージョン 12.1.0.0 のリリース・ノート	1
システム要件と互換性.....	1
Unica Campaign の使用の前提条件.....	1
Unica Campaign の資料のロードマップ.....	2
新機能および変更点.....	5
修正された問題.....	8
Campaign の既知の問題.....	9
Optimize の既知の問題.....	16
Campaign の既知の制限.....	19
Optimize の既知の制限.....	26

第1章. バージョン 12.1.0.0 のリリース・ノート

予定されているソフトウェア・リリースの一部として HCL がリリースする Unica Campaign および Optimize の新機能、問題の修正、および既知の問題に関する情報が含まれます。

Unica Campaign 12.1 のシステム要件と互換性

Unica Campaign は Unica 製品スイートに含まれます。Unica Campaign バージョン 12.1 には Unica Platform 12.1 が必要です。

完全なシステム要件と互換性情報が見つかる場所

この製品と互換性のある Unica 製品のバージョンのリストおよびこの製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。

Unica にログインした後、「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択することによって、この文書にアクセスすることもできます。

Unica Campaign の使用の前提条件

Unica Campaign の使用を開始する前に、ご使用の環境が次の要件を満たしていることを確認してください。

- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、最低でも 21 インチのスクリーンを使用します。
- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、画面解像度を 1600 x 900 に設定します。それより下の解像度では、一部の情報が正常に表示されない場合があります。低い解像度を使用する場合、ブラウザー・ウィンドウを最大化してより多くのコンテンツが表示されるようにしてください。
- ユーザー・インターフェース間をナビゲートするには、マウスが最適です。
- ブラウザーのコントロールを使用してナビゲートしないでください。例えば、「戻る」や「進む」ボタンの使用は避けてください。その代わりに、ユーザー・インターフェースにあるコントロールを使用してください。
- ポップアップ・ブロッカー (広告ブロッカー) のソフトウェアがクライアント・マシンにインストールされている場合、Unica Campaign は正しく機能しないことがあります。最良の結果を出すには、Unica Campaign の実行時にポップアップ・ブロッカー・ソフトウェアを無効にします。
- 技術環境が最小システム要件とサポートされるプラットフォームを満たしていることを確認してください。*
- 適切なブラウザーとそのバージョンを使用する必要があります。*
- アップグレードやフィックス・パックの適用後に、ブラウザー・キャッシュをクリアしてください。これは、アプリケーションを更新した後の 1 度だけ行う必要があります。
- Unica Campaign、または Unica Campaign フローチャートを使用するいずれかのモジュール (Unica Deliver、Unica Optimize、Unica Interact、Unica Collaborate) で Internet Explorer (IE) を使用する場合: 複数回ログインして横並び情報を表示するには、IE を開いて Unica にログインします。次に、IE メニュー・バーで「ファイル」 > 「新規セッション」を選択します。新しい IE ブラウザー・ウィンドウで、同じユーザーまたは異なるユーザーとして Unica にログインします。

! **重要:** これ以外の方法で複数セッションを開かないでください。例えば、新しいタブを開いたり、「スタート」メニューやデスクトップ・アイコンから別のブラウザ・セッションを開いたり、IEの「ファイル」>「新規ウィンドウ」を使用したりしないでください。これらの方法を使用すると、アプリケーションに表示される情報が破損する恐れがあります。

*アスタリスクが示される項目の詳細については、「Unica Recommended Software Environments and Minimum System Requirements」を参照してください。

Unica Campaign の資料のロードマップ

Unica Campaign では、ユーザー、管理者、および開発者を対象とした資料とヘルプを用意しています。

表 1. 起動して稼働状態にする

タスク	資料
新機能、既知の問題、および制約事項について調べる	Unica Campaign リリース・ノート
Unica Campaign システム・テーブルの構造について理解する	Unica Campaign システム・テーブルおよびデータ・ディクショナリー
Unica Campaign のインストールまたはアップグレード	以下のいずれかのガイド: <ul style="list-style-type: none"> • Unica Campaign インストール・ガイド • Unica Campaign アップグレード・ガイド
Unica Campaign 用 Unica Insights レポート	Unica Insights インストールおよび構成ガイド
Unica Campaign に備わっている IBM Cognos® レポートを実装する	Unica Reports インストールおよび構成ガイド

表 2. Unica Campaign の構成と使用

タスク	資料
<ul style="list-style-type: none"> • 構成およびセキュリティーの設定を調整する • ユーザーのために Unica Campaign を準備する • ユーティリティーの実行およびメンテナンスの実行 • 統合について学習する 	Unica Campaign 管理者ガイド
<ul style="list-style-type: none"> • マーケティング・キャンペーンの作成と配置 • キャンペーン結果の分析 	Unica Campaign ユーザー・ガイド

表 2. Unica Campaign の構成と使用 (続く)

タスク	資料
フローチャート・パフォーマンスを改善する	Unica Campaign チューニング・ガイド
Unica Campaign の機能を使用する	HCL Unica 用のマクロ

表 3. Unica Campaign と他の HCL 製品との統合

タスク	資料
IBM Engage との統合	Campaign および Engage 統合ガイド (IBM Marketing Cloud 用)
IBM との統合 Digital Analytics	Unica Campaign 管理者ガイド: 統合の構成方法 Unica Campaign ユーザー・ガイド: キャンペーンの IBM Digital Analytics セグメントのターゲット化
Unica Plan との統合	Unica Plan および Unica Campaign 統合ガイド
Opportunity Detect との統合	Unica Campaign 管理者ガイド: 統合の構成方法 Opportunity Detect 管理者ガイド および Opportunity Detect ユーザー・ガイド: 製品の管理および使用方法
Unica Deliver との統合	Unica Campaign インストール・ガイドおよびアップグレード・ガイド: ローカル環境に Deliver の各コンポーネントをインストールして準備する方法。 Unica Deliver 起動および管理者ガイド: ホストされたメッセージング・リソースへの接続方法。 Unica Campaign 管理者ガイド: オファーの統合を構成する方法。
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition との統合	Unica Campaign および IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition 統合ガイド
IBM WeatherFX との統合	WeatherFX を Campaign と統合して、天候イベントをマーケティング・キャンペーンにプルすることができます。Unica Campaign バージョン 9 およびバージョン 10 のユーザーは、UBX ツールキットを使用して WeatherFX と統合できます。
Unica Director と統合します。	Unica Director インストール・ガイド: Unica Director と Campaign を統合して、実行中/完了した/失敗したすべてのフローチャートのステータスを取得して、ある Unica Campaign 環境から別の環境にキャンペーンを移行し、フローチャート・ログをダウンロード/削除することができます。
Journey との統合	Unica Campaign を Journey と統合すると、Campaign からの入力に基づいてユーザーとの継続的な通信を確立できるようになります。

表 3. Unica Campaign と他の HCL 製品との統合 (続く)

タスク	資料
Link との統合	<p>「Campaign 管理者ガイド」 > 『Unica Campaign と Unica Journey の統合』を参照してください。</p> <p>Unica Campaign は、コネクターの Link 機能を使用します。この機能には、任意の配信チャンネルに接続するための構成とプロビジョニングが含まれています。</p> <p>「Campaign 管理者ガイド」 > 『Unica Campaign と Unica Link の統合』を参照してください。</p>


 **注:** この表にはリストされていない追加の統合を使用できる場合があります。『[Unica Campaign の製品ツールおよびユーティリティ](#)』を参照してください。

表 4. Unica Campaign 用の開発

タスク	資料
REST API の使用	『Unica Campaign REST API』を参照してください
SOAP API の使用	<ul style="list-style-type: none"> 『Unica Campaign SOAP API 仕様』を参照してください 内の JavaDocs devkits\CampaignServicesAPI
Unica Campaign に検証を追加するために、Java™ プラグインまたはコマンド・ライン実行可能ファイルを開発する	<ul style="list-style-type: none"> 「Unica Campaign 検証 PDK ガイド」を参照してください devkits\validationn 内の JavaDoc

表 5. ヘルプの取得

タスク	指示
オンライン・ヘルプを開く	<p>Unica Campaign アプリケーションを使用しているときに、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「ヘルプ」 > 「このページのヘルプ」を選択して、コンテキスト・ヘルプのトピックを開きます。 ヘルプ・ウィンドウの「ナビゲーションの表示」アイコンをクリックすると、ヘルプ全体が表示されます。 <p>オンラインのコンテキスト・ヘルプを表示するには、Web アクセスが必要です。オフライン資料として Knowledge Center をローカルで利用する方法、およびインストールする方法について詳しくは、サポートにお問い合わせください。</p>
PDF の取得	<p>Unica Campaign アプリケーションを使用しているときに、以下のようになります。</p>

表 5. ヘルプの取得 (続く)

タスク	指示
	<ul style="list-style-type: none"> 「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択して、Unica Campaign の PDF にアクセスします。 すべての製品 PDF にアクセスするには、「ヘルプ」 > 「Unica のすべての資料」を選択します。 インストール・プロセス中に PDF のリンクをクリックします。

バージョン 12.1 の新機能と変更点

Unica Campaign 12.1 には、いくつかの新機能と変更点が含まれています。それらを以下に示します。

新たにサポートされるプラットフォームとサポートが中止されるプラットフォームについては、「推奨するソフトウェア環境と最小システム要件」の資料を参照してください。

アップグレード・パス

- サポートされるインストーラー経由のアップグレード・パス: 11.1.x -> 12.1 および 12.0.x -> 12.1。
- 11.1.x より前のお客様は、12.1 への高速アップグレードを実行する必要があります。

高速アップグレード

Unica Campaign 12.1 では高速アップグレード・アプローチがサポートされます。このアプローチでは、バージョン 8.6 以降からバージョン 12.1 にアップグレードできます。このアプローチにより、ユーザーはマルチステップ・アップグレードを回避することができます。高速アップグレード・アプローチは、アップグレード中のダウンタイムを削減するのにも役立ちます。このアプローチは、Unica Platform、Campaign、Optimize、Plan、Interact の 8.6.x バージョン以降からのアップグレードに使用できます。詳細については、バージョン 12.1 でリリースされている高速アップグレードの資料を参照してください。

Campaign と Journey の統合

V12.1 では、Unica に新製品である Journey が導入されました。これは、マーケティング担当者はユーザーの応答に基づいてユーザーとの継続的なコミュニケーションを確立するのに役立ちます。Journey は、Eメール、SMS、および CRM など複数のチャンネルにわたってユーザーとの継続的な対話を確立することに重点を置いています。

Campaign には豊富なセグメンテーション機能が用意されています。エンタープライズ組織の場合、Campaign は大規模な顧客基盤のセグメンテーションを実行し、マーケティングの対象となる顧客セグメントを特定するのに役立ちます。Campaign のセグメント/オーディエンス情報を Journey にプッシュすると、Journey はユーザーとの継続的な対話でそれらを活用します。Campaign フローチャートでは、新しいプロセス・ボックスが提供され、オーディエンス情報が Journey に公開されます。このオーディエンス情報は、Journey アプリケーションで使用されている kafka インスタンスを介して送信されます。

詳しくは、「Campaign 管理ガイド」を参照してください。

Campaign と Deliver の統合

Unica スイートの V12.1 では、Unica Campaign と緊密に統合された E メールおよび SMS の配信ソリューションである Unica Deliver が導入されています。これにより、Unica Campaign は、Campaign E メールや SMS を Unica Deliver とシームレスに実行することができます。E メール配信の場合、Unica Deliver はオファァーのコンタクト先と応答を収集し、Campaign でドリップ・マーケティングに使用できます。

Unica Deliver と Campaign の統合により、マーケティング担当者は以下を実行できるようになりました。

- ターゲットを絞り込んだ測定可能な **E メール・マーケティング・キャンペーン**を実施する。
- Campaign で配信プロセス・ボックスを使用して E メール受信者のリストを定義および作成する。
- 送信する E メールを編集やパーソナライズが可能なインターフェース。
- Campaign インターフェースで提供される「メール配信」タブを使用して、Deliver メール配信を構成、実行、およびモニターする。
- 選択した個人のリストに、パーソナライズされた E メール・メッセージを送信する。
- 応答の追跡。
- E メールによる応答に対応するメールボックスを作成する。

Campaign フローチャートに「配信」という名前の新しいプロセス・ボックスが追加され、これを介して通信を送信することができます。

詳しくは、Unica Deliver の資料を参照してください。

Campaign と Link の統合

V12.1 では、「Unica Link」と呼ばれる新しい製品コンポーネントが Unica スイートに導入されました。Unica Link は、Campaign の機能を拡張し、REST 機能を介してあらゆる配信チャネルと接続できる柔軟性を備えています。

V12.1 とともに、Unica Link は以下の配信チャネル用の参照コネクタァを提供します。

- Salesforce(CRM)
- MailChimp および Mandrill(email)
- Twilio(SMS)

Unica Link は、REST に基づいてあらゆるタイプのコネクタァを構築するためのコネクタァ・フレームワークを提供します。#これらの機能は、V12.1 の HCL サービス・ヘルプで利用することができます。

Campaign アプリケーションでは、新しいプロセス・ボックス、Link が導入されました。このプロセス・ボックスを使用すると、ユーザーは、基礎となる接続への接続を作成できます。

Campaign のリンク・プロセス・ボックスは、フラット・ファイルに出力データを生成し、そのデータを共有ドライブ上の Unica Link アプリケーションと共有します。Unica リンクも応答を収集し、同じ共有ドライブ上のフラット・ファイルに結果を生成します。

Unica Insights - MariaDB をサポートするレポート・ツール

Unica V12.1 レポート・ツールは、Unica Insight という名前で再ブランド化されました。引き続き BIRT レポート・ツールに基づいて動作します。V12.1 では、MariaDB システム・テーブルをサポートするようにレポートが拡張されています。

- Unica Insights - BIRT レポート・ツールに基づくレポート。
- Campaign - Unica Insights を使用する MariaDB システム・テーブル向けのすぐに使用できるレポート。
- Unica Insights ツールは、Unica Marketing Platform とともにデフォルトでバンドルされ、使用できるようになっています。
- Campaign は、Unica Insights システム・データベース (SQL、ORA、DB2、および MariaDB など) ですぐに使用できるすべてのサポートを提供します。

詳しくは、Unica Insights レポートの資料を参照してください。

Campaign のライセンス

V12.1 Unica 製品スイートからライセンスが有効になります。Unica 製品には、実稼働用に適切なライセンスが必要です。実稼働環境以外では、ライセンスは不要です。Unica スイートのライセンス・タイプは製品ごとに異なります。「HCL Unica スイート・ライセンス」のガイドを参照してください。

Unica Campaign のライセンス定義:

- Campaign/Optimize で処理されたマーケティング・レコード/プロセスの数に基づきます。
- 通信やその他のマーケティング・メッセージを送信するオーディエンス (リード/コンタクト) の数を追跡します。
- もっと簡単に言うと、Unica Campaign によって処理されるオーディエンスの数のことです。
- Unica Campaign によって処理されたこれらのオーディエンスの使用量のカウンタが表示されます。
- Campaign の条件および無期限ライセンスを提供します。

Optimize のライセンス

Optimize ライセンスはライセンス・キーに基づいています。Unica Sales/Support チームに連絡して、Optimize のライセンスを取得することができます。Optimize ライセンスは、実稼働環境と非実稼働環境に適用する必要があります。Optimize ライセンスを取得するには、以下の手順に従ってください。

1. Optimize セッションを実行するには、Campaign リスナーを実行しているマシンのホスト名を指定する必要があります。
2. このホスト名を指定すると、サポート・チームによりライセンス・ファイルが提供されます。
3. ライセンス・ファイルを Campaign/conf ディレクトリーにコピーします。

Campaign REST API への追加

言及されている API でテーブル・カタログのリストを取得するための新しい API が用意されています。これにより、マーケティング担当者は、ロードされたテーブル・カタログ内のマップされたテーブルの詳細を把握し、プロセス・ボックス式の設計時にこの情報を使用することができます。

Campaign フローチャートの下に、スナップショット・プロセス・ボックス構成用の API が用意されています。ユーザーは、以下の構成を使用してスナップショット・プロセス・ボックスを構成できます。

1. フラット・ファイルへの出力 (これには、既存のデータ・ディクショナリーを持つファイルへの出力は含まれません)。
2. データベース表への出力 (基本/ディメンション/汎用)。
3. 追加または置換操作を使用したデータベース表への出力。
4. スナップショット・プロセス・ボックスの出力フィールドのマップ。
5. API を介した出力でのユーザー定義フィールドの使用は、まだサポートされていません。

Campaign リスナー・クラスタリングは、Windows でのクラスター共有のための UNC パスをサポートしています

Windows での Campaign リスナー・クラスタリングでは、以下の形式のクラスター共有パスがサポートされるようになりました。

このパスは、次の構成パラメーターの下で使用できます。「campaignClustering」の設定 (Affinium|Campaign|campaignClustering)

```
CampaignSharedHome = \\zebra39.hclpnp.com\CampaignClusterShare\partition1
```

オーディエンス ID の場合は <KEYCOLUMNS> のみ、テーブル・フィールドの場合は <TABLECOLUMNS> というトークンを追加します

Campaign の以前のバージョンでは、固有索引の作成時の「TempTablePostExecutionSQL」のデータ・ソース構成で、オーディエンス ID のみが考慮されてきました。V12.1 では、<KEYCOLUMNS> トークンとともに新しいトークン <TABLECOLUMNS> が導入されました。したがって、固有索引作成照会で <KEYCOLUMNS> トークンを指定すると、オーディエンス ID のみが考慮され、<TABLECOLUMNS> を指定すると、オーディエンス ID 以外のすべてのフィールドが考慮されます。ユーザーがすべてのフィールドを考慮する場合、新しい照会は 'TempTablePostExecutionSQL' CREATE unique INDEX <TABLENAME>_IX1 ON <TABLENAME> (<KEYCOLUMNS> <TABLECOLUMNS>) になります。

Unica Campaign V12.1 の修正された問題

以下の問題は、Unica Campaign 12.1 で修正されました。

問題キー 要約

HMA-309022 Campaign フローチャート API は内部サーバー・エラーをスローします。

HMA-312315 2020 年より後の開始日/終了日が不正な日付になります。

HMA-304847 Angularjs のバージョンが 1.7.9 にアップグレードされました。

HMA-311592 反映されたクロスサイト・スクリプティングの修正

HMA-310375 V11.1 では、「キャンペーン所有者」フィールドに、「名前」の代わりにユーザー ID が表示されます。

- HMA-310382 Optimize の「スコア」テーブルが逆さまに表示されます。
- HMA-310380 セキュリティーの脆弱性: クロスサイト・スクリプティング INC8959653。
- HMA-310372 フランス語メッセージの errorPageCSRF.jsp の単一引用符の問題。
- HMA-310622 10.0 と 11.1 でのインデックス作成の相違。
- HMA-310623 セグメント・プロセス・ボックスの実行で出されたエラー CODE 10613: フィールドが見つかりません。
- HMA-307221 Campaign での Swagger ツールの修正。
- HMA-311366 ページ設定が、Campaign 詳細検索で機能していません。
- HMA-307953 Campaign API 呼び出し: 顧客の選択基準を含む抽出プロセス・ボックスの作成中にエラーが発生しました。
- HMA-287701 Contact Optimize セッションの除外/付加ルールにセグメントを追加できません。
- HMA-279621 Contact Optimization 概要ページの UI でのスペル・エラー。
- HMA-279675 Optimize の「分析」タブで、オファー・フィルタリング・サマリー・レポートの「オファー数」セクションの青色のバーがオーバーラップしています。
- HMA-310492 戦略的セグメントの「分析」タブ。
- HMA-307219 子フォルダー API 呼び出しを含むフォルダーの作成が予期したとおりに機能しません。

Unica Campaign V12.1 での既知の問題

Unica Campaign 12.1 には、次の既知の問題があります。

表 6.

ID	既知の問題
310343	古い eMessage プロセス・ボックスを使用するキャンペーン・フローチャートは、v12.1 では機能しません。
312109	Campaign 12.0 から 12.1 へのアップグレードのインストールが完了し、致命的でない 3 つのエラーが発生しました。
300159	Unica Platform と Campaign アプリケーションが同じ JNDI を使用している場合、フローチャートの保存中に HTTP 通信エラーが発生します。 Platform と Campaign アプリケーションには別個の JNDI を使用することが推奨されます。
295574	java.lang.NoClassDefFoundError: javax.el.ELManager が原因で、wWebSphere アプリケーション・サーバーへの Campaign アプリケーションのデプロイメントが失敗しました。ユーザーは、WebSphere アプリケーション・サーバーの lib ディレクトリーに <code>javax.el-3.0.1b11.jar</code> を

表 6. (続く)

ID	既知の問題
	コピーする必要があります。javax.el-3.0.1-b11.jar は https://mvnrepository.com/artifact/org.glassfish/javax.el/3.0.1-b11 からダウンロードできます。
311916	Journey プロセス・ボックス: Journey PB での検索では、最後の検索ストリングが保持されます。ユーザーは、検索基準を手動でクリアする必要があります。
306110, 306108	Campaign アプリケーションのデプロイまたは開始中に、module-info.class に関連するエラーと、廃止されているハイバネート名前空間に関連する警告がスローされます。これらは無視できます。
304803	WebSphere コンソール・ログに「jcc[t4][10217][10310][4.14.111] 接続が確立された後に、接続読み取り専用モードを適用できません。」という警告が表示されます。アプリケーション・サイドに影響はありません。これらは無視できます。
306095	Campaign インストーラーの製品資料リンクが壊れています。製品インストーラーとともに使用可能な資料を参照してください。
312150	Journey プロセス・ボックス: 複数の単語を使用する関連付けられたジャーニーの検索が機能していません。
310126	Campaign アンインストール・フォルダーの eMessage インスタンス - これらは無視できません。Unica は eMessage をサポートしなくなりました。
312299	Campaign または Platform ナビゲーション URL は、デフォルトの http または https ポートが含まれていると、最新メニューが機能しません。ナビゲーション URL でデフォルトの http (80) ポートまたは https (443) ポートを使用している場合は、ポートを削除してください。
312231	Marketing Platform ログイン方法が Web アクセス制御に設定されている場合、Campaign Swagger API が Swagger ページでのみ機能しません。
303532	MariaDB がシステム・データベースとして使用されている場合、最適化、メール・リスト、またはコール・リスト・プロセス・ボックスの実行は、エラー 10646 が発生して失敗します。このエラーを解決するには、フローチャートの詳細設定で「データベース内最適化」を有効にする必要があります。
13460	メール・リスト・プロセスの「実現」タブの「ファイルにエクスポート」オプションがチェックされていないと、「サマリー・ファイル」オプションが、有効になるべきではないのに有効になります。
175825	defaultBehaviorWhenOutputToFile を「新規ファイル作成」に設定しても、初めて新規出力 (エクスポート) ファイルを選択する場合にしか正常に動作しません。既存の出力ファイルを変更して新規出力ファイルを選択しようとする、オプション「データ追記」がデフォルトで選択されます。 これは、手動で「新規ファイル作成」に変更できます。

表 6. (続く)

ID	既知の問題
APAR 198495、PO05293、198495	カスタム・マクロについて、保管されたオブジェクト (カスタム・マクロ、フローチャーテンプレート、保管されたユーザー定義フィールドなど) に対して割り当てられている権限が「付与されていない (Not Granted)」のユーザー・アカウントが、カスタム・マクロを使用して、権限に関係なく、すべての保管オブジェクトの編集、削除、追加、移動を行うことができます。
204347	LARGE_DATA: ブラウザーの異常終了 - 700 個のセグメントがあるメール・リスト・プロセス・ボックス - 各セグメントに 512 個のオフターで保存します。
211253	複数の列があるファイル・ベースの入力で異なる形式の日付が含まれている場合、日付が正しく読み取られません。
212890	Amazon Redshift ではプール型の列は、テーブル・マッピングで「テスト」フィールド型として認識されます。
220474	ソース・テーブルの列名に ASCII 以外の長い文字 (おそらく UTF8 の 10x3 バイトの文字よりも長い文字) が含まれていると、一時テーブルが作成されないためにスナップショット・プロセスが実行されません。
220705	「ディメンション・テーブル」フィールドのプロファイル数が不正確で、プロファイルが進行中でもプロファイル率が 100% と表示されます。
APAR 222047、PO06172、222047	フローチャートに 2 つの抽出プロセスが構成されていて、2 番目の抽出プロセスにフランス語のアクセント記号付き文字を使用した名前のユーザー定義フィールドが含まれている場合、Unica Campaign の抽出プロセスは DB2 データベースへの書き込みを実行しません。
APAR 225568、PO06304、225572	temptablepostexecutionsql は、coremetrics セグメントの選択中には実行されません。
230340	新規のメール・リスト・プロセスで「パラメーター」タブの「発効日」にデータ・フィルターを割り当てた場合、既存の編集したメール・リスト・プロセスと比較して、メール・リスト・プロセスの動作が一貫しない動作になります。メール・リスト・プロセスが出力ログ・ファイルに日時ユーザー定義フィールドを出力しません。発効日パラメーター値を変更すると、メール・リストの実行が失敗することがあります。
230606	メール・リスト・プロセスでフィールドを抽出して使用するフローチャートの場合に、メール・リスト・プロセスの「パーソナライズ」タブの「抽出ノード」の下のフィールドが、プロセスの実行前と実行後で異なります。
231859	Chrome ブラウザーを使用する場合、メール・リスト・プロセスに多数の処理およびオフターが割り当てられていると、「パーソナライズ」タブのロードで応答が返されるまでに約 20 秒かかります。例えば、250 のセルが存在するメール・リスト・プロセスで、セルごとに複数のオフターがあり、オフターごとに複数の属性がある場合などです。
232502	ユーザーが何らかの変更を入力に加えると、メール・リストのパフォーマンスに問題が生じます。変更後に初めてタブを切り替えるときに遅延が発生します。ユーザーが入力を変更し

表 6. (続く)

ID	既知の問題
	てから初めて「処理」タブまたは「プロセス」タブに切り替えると、選択した入力数に応じて約 10 秒から 15 秒の遅延があります。この最初の遅延が発生した後は、入力の変更されるまでは遅延は発生しません。
232835	Campaign アプリケーションを長時間 (数日間) 継続して使用すると、アプリケーションのパフォーマンスに影響します。時により、例外エラー・メッセージが Campaign ページに表示されます。Campaign Web アプリケーションおよび Campaign リスナーを再始動する必要があります。
238789	Chrome ブラウザーを使用する場合、600 のセルが存在し、セルごとに複数のオファーが割り当てられているメール・リストをユーザーが開くと、アプリケーションが応答を停止します。Internet Explorer 11 ブラウザーを使用する場合は、メール・リスト・プロセス・ボックスに何も表示されません。
239142	カウント・フィルター演算式が正しくないためにオーディエンス・プロセスが失敗した場合に、ユーザーがフィルター演算式を削除し、条件を追加してオーディエンス・プロセスを再び実行すると、プロセスが失敗します。条件は考慮されず、代わりに前のカウント・フィルター演算式が使用されるために失敗します。オーディエンス・プロセスを正常に実行するためには、オーディエンス・プロセス構成ウィンドウを開き直して、「条件」、「保存」、「閉じる」の順にクリックする必要があります。これで、オーディエンス・プロセスは条件を考慮して正常に動作するようになります。
APAR 243895、PO06966、243897	スペース文字は、プロファイル中に " に変換されます。
PMR 223848、245664	複数のユーザーが複数のフローチャートに同時にアクセスすると、関係ないフローチャートが Campaign に表示されます。不適切なフローチャートが表示されているように見えます。
248007	Hive のパフォーマンス: PRE - 一時テーブルにデータをロードする (抽出) ために実行される単一の INSERT ステートメントを Hive で使用すると、2000 レコードで 19 分かかります。
PMR 269280、269765	DB2 データベースで切り捨てが機能しません。DeleteAsTruncate プロパティは、出力プロセスが REPLACE TABLE に構成されている場合に、Campaign で TRUNCATE TABLE を使用するか、それともテーブルからの削除を実行するかを指定します。値が TRUE の場合、Campaign はテーブルに対して TRUNCATE TABLE を実行します。値が FALSE の場合、Campaign はテーブルに対して DELETE FROM を実行します。デフォルト値はデータベース・タイプによって異なります。多数のクライアントが Oracle から DB2 に移行しているため、パフォーマンスの違いが非常に目立ちます。Oracle から DB2 に移行する顧客にとって、スナップショットとメール・リストのパフォーマンスを比較すると大きな違いがあります。
269785	Chrome および Safari ブラウザーでは、ロケールが日本語として設定されている場合、ラベルは「テンプレートの保存」ウィンドウのボタンにオーバーラップします。

表 6. (続く)

ID	既知の問題
270528	ユーザーがテーブル・フィールドを選択し、一致する表が返されなくなる検索フィルターを選択プロセスで適用しても、「使用」ボタンと「プロファイル」ボタンが選択プロセスで有効なままです。
270814	ユーザーが「スケジューラー」ページでマウスを使用して「トリガー発生時に」ドロップダウンから値を選択することができません。
271642	バージョン 10.1 からのアップグレード時のコンソール・モードのインストール、および新規インストールで、「しばらくお待ちください.....」というメッセージが複数回表示される
271676	データベース内最適化のチェック・マークが外されている場合に、DB2 および Oracle データベースの抽出テーブルが削除されません。
272253	500 を超えるテーブルがマップされている場合にユーザーが「テーブル・マッピング」ウィンドウを開くと、Campaign アプリケーションのパフォーマンスが影響を受けます。
2968	ほとんどのウィンドウにホット・キーが実装されていません。Dojo 実装では、キーボード・ショートカットを使用して一部の機能をアクティブにすることができません。ユーザーはその代わりにボタンをクリックしなければなりません。
PMR 266519、75262	「前のページに戻る」をクリックすると、ユーザー・インターフェースの表示がゆがむ場合があります。ブラウザのコントロールではなく製品内のリンクを使用してナビゲートしてください。
N/A	Unica Campaign をポート 80 でアプリケーション・サーバー・クラスター環境に配置する場合は、Campaign ナビゲーション URL にこのポート番号を含めないでください。 例: <code>http://<host>.<domain>:80/Campaign</code> should be changed to <code>http://<host>.<domain>/Campaign</code> 。「設定」>「構成」ページの Campaign navigation の下にある <code>serverURL</code> プロパティの値を変更します。
N/A	フローチャートの実行時に、エラー「31606: 履歴テーブルが変更されました (31606: History table are changed)」が出されてメール・リスト・プロセス・ボックスの構成が解除されます。 1. フローチャートを作成してメール・リスト・プロセスを追加する前に履歴テーブルがマップされていた場合は、問題ありません。 2. ステップ 1 に従わない場合でも、エラーが表示された後に履歴テーブルをマップできます。フローチャートを編集し、プロセス・ボックスを構成すれば、プロセスは実行されます。
N/A	非 ASCII データを Campaign にマイグレーションした後、ターゲット・システムで Campaign フローチャートを開けない場合があります。セッション・フローチャートは正常に開きます。この問題を回避するには、上書きモードでキャンペーンを再度マイグレーションします。これで、フローチャートを開くことができます。

表 6. (続く)

ID	既知の問題
TT 062333	関連付けられた製品に関する情報が、Marketing Operations でオファーに表示されません。製品に関連付けられた Campaign でオファーを作成し、Marketing Operations にインポートすると、関連付けられた製品に関する情報が Marketing Operations で表示されません。
270655	テーブル・マッピング: テーブルのマッピング時に、@ を含むテーブル名がサポートされます。@ のような特殊文字はテーブル名にサポートされるべきではありません。@ を含むテーブル名は以前からサポートされているため、この機能は現在更新されていません。
283637	フローチャートに1つのメールリスト PB が構成されている場合、同じフローチャートに別のメールリスト PB を追加すると、新しいメールリスト PB の「処理」タブ、「パラメーター」タブ、「パーソナライズ」タブで既に構成されているすべての値が、新たにドラッグしたメールリスト PB に自動的に表示されることが確認されています。
281389	Campaign をアップグレード・モードで実行している際、インストーラーは前のバージョンのレスポンス・ファイルからインストール・プロパティ・ファイルを読み込む必要があります。そのレスポンス・ファイルは前のインストールのインストール場所で使用できるためです。ただし、前のバージョンのレスポンス・ファイルからはインストール・プロパティ・ファイルを読み込みません。
280623	サンプル PB の「サンプル数」フィールドで「3」を指定し、[sample1] を3つのサンプルで構成します。3つのサンプルのサンプル・サイズはそれぞれ「ランダム・サンプル・メソッド」に基づいて50%、50% および「残りのすべてのレコード」です。フローチャートの実行後、サンプル PB を再び開くと、「残りすべて」チェックボックスにチェックマークが付けられている場合、「プロセスの実行結果が失われます。続行しますか。」というメッセージがサンプル PB に表示されます。
283101	Chrome: 「役割/権限の変更を Campaign に通知できません。Deliver OD が同期していない可能性があります。」 「保存」をクリックすると、セキュリティ・ポリシーの変更がポップアップに表示されます。この動作が発生するのは、ログインしてポリシーを変更し、「保存」をクリックした後の最初の1回のみです。さらに、これは CHROME でのみ再現可能です。Chrome V64 と V65 でテスト済みです。
282844	「チャンネル」および「開始日/終了日」で Campaign オファーをソートできません。各列をクリックすると、その下のオファーが昇順でソートされるはずですが、同じ列を2度めにクリックすると、その下のオファーは降順でソートされるはずですが。
283695	IMPALA ユーザー DB のユーザー・データベースへの抽出が有効な状態で、セグメント・プロセス・ボックスの実行が失敗します。Unica Campaign サーバーに抽出する場合、このエラーは再現されません。
284436	Weblogic 12.2.1 における ear ファイル配置で Platform.war と campaign.war が機能しません。回避策は、campaign.war と unica.war を別個に配置することです。

表 6. (続く)

ID	既知の問題
288228	IMC 側にアップロードされた日付フィールドが mm/dd/yyyy 形式でない場合、E メール・プロセス・ボックスの実行は失敗します。このデータ形式は IMC Importlist API で必要とされます。importlist API を使用して IMC にアップロードする際、日付に DELIM_M_D_YYYY(mm/dd/yyyy) 形式を使用すると、正確に動作します。
289135	TOMCAT: Tomcat アプリケーション・サーバーに配置した後、Unica Platform または Campaign が始動しないことがあります。回避策: Tomcat Web アプリケーション・ディレクトリー内の Campaign および Platform ディレクトリーを削除し、作業ディレクトリーの内容を Tomcat がインストールされているパスから削除します。
304945	refresh コマンドは、マスター・リスナーの優先順位または重みを更新しないため、優先順位または重みを変更する必要がある場合は、ダウンタイムをとってアプリケーションを再起動する必要があります。
312445	リンク・プロセス・ボックス - リンク先として選択された最初の入力セルに対してのみデータを送信します。
UL-285	Connection Salesforce - 更新 (リード/コンタクト) では、後続の Salesforce アクションが断続的に失敗します。
UL-250	Connection Mandrill - 対象オーディエンスへの Eメールの送信が断続的に停止します。
UL-281	Connection Mandrill - 英語以外の文字を含む件名行 - mandrill はユーザーに Eメールを送信しません。
UL-259/UL-242	Connection Mailchimp/Mandrill - 結果は 1000 人のユーザーにのみ提供されます。
UL-214	MailChimp/Mandrill - プロセス・ボックスの選択または再オープンの後に、オーディエンス値が ID フィールドに変更されます。
UL-194	MailChimp/Mandrill - Mandrill テンプレートで、マージ・フィールドがローカライズされた文字として追加されている場合、パーソナライズが機能していません。
UL-257	キャンペーン・プロセス・ボックスで、「リンク接続」ページのロードに時間がかかります。
UL-231	Twilio 接続 - SMS 本文/テキスト領域では、5 つのフィールドのみパーソナライズがサポートされます。
UL-279	Connection MailChimp - 分岐の実行または単一のリンク・プロセス・ボックスの実行は、Mailchimp 接続があるリンク・プロセス・ボックスではサポートされません。完全なフローチャートを実行する必要があります。
UL-287	出力データがない場合、リンク・プロセス・ボックスは失敗します。
該当なし	Unica Campaign アプリケーションと Unica Link アプリケーションの URL は、同じドメイン名を持っている必要があります。異なるドメインに配置された Unica Campaign アプリケーションと Link アプリケーションは機能しません。

表 6. (続く)

ID	既知の問題
UL-189	Connection Mandrill/MailChimp- Mandrill および MailChimp コネクターの「メールの件名」行で絵文字が機能しません。
313650	スケジュール済みの Platform フローチャートがアップグレード後に実行されません。スケジューラー・ジョブを更新するには、quartzjobtool を使用します。これは必須ステップです。このアップグレード・ツールが実行されない場合、既存のスケジュール済みジョブは開始されません。quartzjobtool は、Unica Platform がインストールされている場所の tools\bin ディレクトリーにあります。tools\bin ディレクトリーからこのユーティリティーを実行します。コマンドの例 (Windows): quartzjobtool.bat コマンドの例 (Unix): ./quartzjobtool.sh
306383	UBX 登録ユーティリティーが失敗し、エラーが発生しました。原因: java.lang.ClassNotFoundException: org.jboss.logging.BasicLogger エラー
316802	12.1 FP2 MariaDB]:CODE 704: セグメント PB を介して抽出されたフィールドとテーブル・フィールドをデータベース・サーバーに抽出する際に、ファイル書き込みエラーが発生しました。

Optimize V12.1 での既知の問題

問題	問題 ID	説明
連絡先リストの最適化中、スコア・マトリックスに手動で入力したスコアが指定されない。	問題 194109	手動で入力したスコアは、顧客キャパシティー・ルールにおける計算のために指定する必要があります。ただし、顧客キャパシティー・ルールの適用中は PCT 内のスコアが指定され、すべての顧客レコードが最適化されたリストから削除されます。
Campaign Optimization のサマリー・レポートが正しくない。	問題 176368	ルールでオファー・バージョンが使用されている場合、最適化前の数と最適化後の数を対比して表示するレポートで、最適化前のレコード数が常に 1 と報告されます。最適化後の数は正確です。
Campaign を 9.1 にアップグレードした後に、Optimize リスナーを ACOServer.sh から停止できなくなった。	問題 81245	ユーザーは Unica Campaign と Unica Optimize を同時にアップグレードする必要があります。それができない場合は、manager/kill コマンドを使用して、手動で Unica

問題	問題 ID	説明
ACOOptAdmin ユーティリティーのエラー・メッセージが非英語のロケールに従って表示されない。	DEF051284	Optimize リスナーを 停止する必要があります。 英語以外のロケールで ACOOptAdmin コマンド・ライン・ユーティリティーを実行すると、指定されたロケールに従ったエラー・メッセージは表示されません。エラー・メッセージは英語でのみ表示されます。
unprocessables_sessionid.csv にオファーを受けた顧客が含まれている可能性がある。	DEF054841	一部のシナリオでは、オファーを受けた少数の顧客が unprocessables_sessionid.csv ファイルに含まれている可能性があります。
特定の環境ではカスタム・キャパシティー・ルールの最適化の結果が不正確である。	DEF058362	以下の基準を満たす顧客は、受け取るオファーが希望していたよりも少なくなる場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 顧客の推奨トランザクションが偶数である。 • これらの各トランザクションは同じスコアである。 • このスコアは低い値である。
いくつかのラベルが、日本語、中国語、および韓国語で正しく表示されない。	DEF059595	いくつかの翻訳されたラベルが正しく表示されていません。例えば、スコア行列を手動で編集した場合、テーブルの右側の垂直ラベルは逆さまに表示されます。また、「セグメント内の顧客」を含む最適化ルールの場合、「セグメント」ラベルは 2 行に表示されます。
「オファー・フィルタリング・サマリー」レポートで、各カスタム・キャパシティー・ルールによって削除される推奨コンタクト数が不正確に表示される。	DEF059805	この Unica Optimize セッションの参加フローチャートに複数のコンタクト日付および異なるチャネルの各顧客に対する複数のオファーが含まれている場合、「オファー・サマリー」レポートでカスタム・キャパシティー・ルールの「このルールに

問題	問題 ID	説明
オファー・バージョンの照会ビルダーの問題。	DEF060676	<p>より除外」列には不正確な数が表示されます。</p> <p>オファー・バージョンの照会ビルダーに以下の小さい問題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択ボックスのフォーム要素タイプを持つカスタム属性の場合、オファー・バージョンの照会ビルダーは選択ボックスを使用しません。値を手動で入力する必要があります。 • グループ・レベルが削除された場合、サブグループの条件が親の条件に追加されます (逆もまた同様)。 • スtring変数用にすべての算術演算子が表示されていますが、適用されるのは「等しい」と「等しくない」だけです。 • 条件の入力の際に、属性の定義された長さは検証されません。
日付を含んだオファー・バージョン・ルールは予期した最適化結果を提供しない。	DEF061554	<p>日付を含んだオファー・バージョン条件を作成した場合 (例えば、オファー・パラメーター「valid end date」が「12/31/2011」に等しい)、オファー・バージョン条件を含むルールは満たされない場合があります。ただし、それ以外のルールは予期したとおりに動作します。</p>
暦年をまたがるルール例外は不正確な結果になる。	DEF061639	<p>暦年をまたがる (例えば、2011/07/01 から 2012/06/30) 「最小/最大オファー数」キャンペーン・ルールのルール例外を作成した場合、ルールの例外条件を含むルールは満たされない場合があります。</p>

問題	問題 ID	説明
<unica_svradm> refresh コマンドが変更を反映しない。	HMA-304945	す。ただし、それ以外のルールは予期したとおりに動作します。
<unica_svradm> refresh コマンドがリスナーから削除しない。	HMA-305764	実行中の環境で、マスター・リスナーの優先順位を変更した後、<unica_svradm> refresh コマンドが変更を反映しません。
SVRADMIN ユーティリティーを使用してフローチャートの実行が進行中でも、ユーザーは実行中のフローチャートに手動で干渉することができます。	HMA-306037	既存のクラスターからリスナー・ノードを削除する場合、<unica_svradm> refresh コマンドがクラスターからそのノードを削除しません。削除されたノードに対する実行要求が依然として観察されます。リスナーを再始動すると、この問題が解決されます。今後のフィックス・パックで修正されます。
SVRADMIN ユーティリティーを使用してフローチャートの実行が進行中でも、ユーザーは実行中のフローチャートに手動で干渉することができます。	HMA-306037	SVRADMIN ユーティリティーまたはスケジューラーを使用してフローチャートの実行が進行中でも、ユーザーは実行中のフローチャートに手動で干渉することができます。今後のフィックス・パックで修正されます。

Unica Campaign V12.1 の既知の制限

Unica Campaign 12.1 には、次の既知の制限があります。

表 7. Unica Campaign の既知の制限

ID	既知の制限
304128	Platform 方式またはサード・パーティーのディレクトリー・サービスからのユーザー認証は、Campaign または Optimize API ではサポートされません。API とともに使用するには、Unica Platform ユーザーを使用する必要があります。
305130	フローチャート・テンプレートに 256 文字を超える長さのデータ・ソース名が含まれている場合、そのテンプレートはインポートされません。データ・ソース名を 256 文字未満に変更して、フローチャート・テンプレートを再度保存します。
305764	何らかの理由で、アプリケーションの稼働中に、ユーザーが Unica Platform のリスナー・クラスター構成から Campaign リスナー・ノード構成を削除した場合、このリスナー・ノードに接続しているユーザーは別のリスナーにリダイレクトされません。Campaign

表 7. Unica Campaign の既知の制限 (続く)

ID	既知の制限
	Web アプリケーションを再始動する必要があります。リスナー・ノードを削除する必要がある場合は、ダウンタイムを取り、Campaign Web コンポーネントとリスナー・コンポーネントを再始動してください。
17202	エラー 19024: セグメント・フォルダーからセグメントが削除された場合に、そのフォルダーを削除できない。フォルダーから削除されたセグメントは、そのフォルダー内で非アクティブなセグメントとして残ります。非アクティブなセグメントを含むフォルダーは、削除できません。これは所定の動作です。
185854	ビッグデータ: MS Windows オペレーティング・システムでは、ユーザー・データ・ソースとして使用する Hadoop ベースの Hive ビッグデータとの Campaign の統合がテストされていません。
190621	ビッグデータ: ユーザー・データベースとして Hive ビッグデータを使用する Campaign では、最大 4 階層のベース・レベルおよびディメンション・レベルを使用してユーザー・テーブルをマッピングすることはサポートされていません。ベース・レコード・テーブルを「選択」プロセス・ボックスで 4 つのレベルのディメンション・テーブルとマップし、4 番目のレベルのディメンション・テーブルに基づいて照会をビルドすると、照会はエラー 11528 で失敗します。この問題は、ビッグデータ・ユーザーに影響を与えません。複数のディメンションは必要ないからです。定義上、ビッグデータ・ソースは、Hadoop ノード (HDFS など) 全体に大規模なテーブルのレコードを分散させています。
194095	Redshift データベースで、データを「スナップショット」プロセス・ボックスからエクスポートする際に、「サポートされないタイプのタイムゾーン付きタイムスタンプ (Unsupported type timestamps with time zone)」というエラー・メッセージが表示されます。タイム・ゾーン付きタイム・スタンプは、Amazon AWS ではサポートされない PostgreSQL データ・タイプです。
195581	キャンペーン・フローチャートの実行中にリスナーが異常終了または停止すると、ユーザーはその実行中のフローチャートに UI からアクセスできなくなります。要求はクラスターの別のノードによって処理されますが、このフローチャートにアクセスすると「リスナーのフェイルオーバーが発生しました... (listener failover occurred...)」というポップアップ・メッセージが表示されます。マスター・リスナーを再始動する必要がある場合があります。
232032	リスナーをクラスター化した場合、ユーザーは Campaign リスナーを 1 つのサーバー (マシン) で 1 つのみ開始できます。
PMR 243195, 244148	Campaign でギリシャ語文字 A および B を含む列をプロファイルすると、A のみが、レコードの総数と一緒にシステムから戻されます。修正を適用すると、大/小文字が違うだけの非英語の文字の一部 (フランス語の é と É など) が、2 つの異なる値としてプロファイルでカウントされます。英語の文字の場合は、大/小文字が違うものとしてカウントされません。

表 7. Unica Campaign の既知の制限 (続く)

ID	既知の制限
244482	Campaign - Marketing Operations 統合が有効な場合は、深い検索を実行すると、Marketing Operations プロジェクトで作成したすべての Campaign がリストされます。Marketing Operations - Campaign 統合が有効な場合に、Marketing Operations プロジェクトで作成した Campaign は、Campaign のリスト・ページにリストされず、Marketing Operations プロジェクトのリスト・ページにしか表示されません。Marketing Operations にアクセスする権限を持たないユーザーは、深い検索の結果から、Marketing Operations プロジェクトで作成したキャンペーンにアクセスすることができません。
248943	ユーザー・プロフィール・データベースで同期フィールド以外のフィールドを変更 (オーディエンス・レコードのテーブル列の値を変更) した後に、ユーザーが再度 E メール・プロセスを実行すると、Campaign フローチャート・ログに DUPLICATES パラメーターとして Engage から負の数が返されます。
N/A	ビッグデータ: フローチャート内のプロセス・ボックスに対して UPDATE 操作を実行するには、ACID プロパティをサポートするように HIVE テーブルがトランザクション・テーブルとして構成されている必要があります。これは、HIVE バージョン 0.14 で導入された主要機能です。
N/A	IBM WebSphere Application Server を使用して Interact を構成する場合: JDK 1.7 を使用するように IBM WebSphere JVM を構成する必要があります。IBM WebSphere Application Server 8.5.5.x に JDK 1.7 および HTTPS 通信を構成する場合は、IBM JAVA SDK バージョン 7.0.8.10 以降を使用する必要があります。
N/A	未加工 SQL 照会で複数の SQL ステートメントを使用することは、ビッグデータのユーザー・データ・ソースでは現在サポートされていません。関連情報については、IBM Knowledge Center の「Hive 照会言語への準拠」を検索してください。
N/A	ダイアログの動作: フィールドをアクティブにしたり、フィールド値を変更したりするために 2 回クリックする必要がある場合があります。
N/A	Campaign monitoring の monitorEnabledForDeliver 構成プロパティは現在使用されていません。
N/A	関連製品に関する制限: オファー管理が Unica Plan から実行されるとき、製品 ID をオファーに関連付ける「関連製品」の機能は使用できません。
N/A	メール・リスト・プロセスでのユーザー定義フィールドからの結果が空であるか、または正しくない。これが発生するのは、値が変わる生成フィールド (UCGF) を呼び出すユーザー定義フィールドが使用されるプロセス・ボックスに限られます。 メール・リストのユーザー定義フィールドでは、UCGF が定数でない場合に UCGF を使用しないでください。また「パラメーター」タブから、オファー属性にデータを設定するために UCGF を呼び出すユーザー定義フィールドを作成しないでください。

表 7. Unica Campaign の既知の制限 (続く)

ID	既知の制限
N/A	Campaign 生成フィールド (UCGF) をプロファイルしても、正しい結果が生成されません。一部の UCGF の値は、セルまたは処理されるオファーに依存します。セル関連の UCGF の場合、プロファイル中は最初のセルに関連付けられた値だけが表示されます。
N/A	ターゲット・セル・スプレッドシートを開いたときに、カスタム・セル属性のデフォルト値が表示されない。デフォルト値は、最初表示されませんが、使用されます。ターゲット・セルのスプレッドシートでカスタム・セル属性をクリックするか開いて編集することにより、値を表示したり変更したりすることができます。
N/A	UA_UsrResponseType.Name フィールドに、左括弧とそれに続く単一引用符とを含めることができません。
N/A	<p>複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する。</p> <p>Unica Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうち 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Unica Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまう場合があります。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマッピングする場合は、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Unica Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>
161323	次の場合に「ログインに失敗しました。エラー 10553」というエラーが発生する可能性があります。「Unica Platform セキュリティ ログイン」方法が「Windows 統合ログイン」または「Web アクセス制御」に設定されている場合に、Campaign ユーティリティにログインしようとしたとき。この問題を回避するため、Campaign ユーティリティを使用する前に、ログイン・タイプを「LDAP」または「Platform」に変更してください。
176377	ユーザー DB の DB2 10.5 BLU:Unica Campaign データ・ソースの一時テーブルに索引付けの要件がありません。DB2 10.5 (BLU 機能が ON) では、Unica Campaign で索引付けが必要ありません。Unica Campaign には、データ・ソース用のプロパティがあります。例えば、TempTablePreTruncateRunScript、TempTablePostExecutionSQL、PostTempTableCreateRunScript など、その中で SQL やスクリプトを使用してユーザー・データベース・テーブルに索引を作成できます。DB2 10.5 をカスタマー・データ

表 7. Unica Campaign の既知の制限 (続く)

ID	既知の制限
201,968,200,241	<p>ベースとして使用していて、BLU 機能が ON になっている場合、これらの一時テーブル・プロパティを構成する必要はありません。</p> <p>フローチャートで 2 つのプロセス・ボックスを非常に近くに移動させると、接続矢印の向きが変わります。この制限は、矢印のビジュアル表示に影響します。プロセス・データ・フローには影響ありません。これを回避するには、2 つのプロセス・ボックスの距離を離して、矢印が正しい方向を向くようにします。</p>
211293	<p>Unica Campaign で、組み込みマクロ <code>Current_Date()</code> を Hive 1.2 ベースの Big Data インスタンスに対して実行するとエラーになります。Hive ODBC ドライバーは <code>Current_Date</code> マクロによるインターバル値の取得をサポートしていません。例えば、以下の照会を実行すると Hive エラーになります。</p> <pre data-bbox="469 758 1162 827">SELECT DISTINCT customerid FROM Customer_date WHERE ((Customer_date.my_date_mmdyyyy - CURRENT_DATE()) >= 7)</pre> <p>エラー: エラー: Hive 2 内部エラー: 次の型からの変換はサポートされません: <code>interval_day_time</code></p> <p>回避策: Hortonworks を使用する Hive に対する RAW SQL 照会で <code>Current_Date</code> 関数を使用するには、以下の形式で SQL を実行します。</p>
310769	<p>Unica Campaign では、組み込みマクロ <code>Current_Date()</code> が Impala データ・ソースに対して実行されるとエラーになります。Impala ODBC ドライバーは <code>Current_Date</code> マクロによるインターバル値の取得をサポートしていません。例えば、以下の照会を実行するとエラーになります。</p> <pre data-bbox="469 1308 1422 1415">INSERT INTO TABLE UAC_133824_5 SELECT DISTINCT store_id, d_customer_key FROM srvacammo.bast_segment WHERE (srvacammo.bast_segment.ba_last_trans_date > (CURRENT_DATE - 2))</pre> <p>エラー: Impala での照会の実行中にエラーが発生しました: [HY000]: AnalysisException: 列/フィールド参照を解決できませんでした: 'current_date'</p> <p>回避策: 未加工 SQL 照会では、<code>Current_Date</code> は Impala では機能しないため、ユーザーは <code>current_date</code> の代わりに、<code>now()</code> または <code>current_timestamp()</code> を使用できます。</p>
213088	<p>保護された環境に Campaign がインストールされていても無保護の環境に IBM Cognos がインストールされている場合、Microsoft Internet Explorer 11 を使用するとき、Cognos レポートは表示されません。回避策: Unica Campaign が HTTPS で構成されている場合、IBM Cognos も HTTPS で構成します。</p>

表 7. Unica Campaign の既知の制限 (続く)

ID	既知の制限
217488	Campaign でローダー・スクリプトをトリガーするまでは、IBM は Redshift 用のデータベース・ローダーをサポートできません。ローダー・スクリプトを実行する際の問題は、IBM のサポート対象外です。
223716	<p>HTTP 動詞の改ざんを使用する認証バイパス</p> <p>HttpVerbFilter.class パッチを適用する代わりに、以下の回避策を使用してアプリケーションのセキュリティを確保できます。</p> <p>以下の手順を実行して web.xml を更新します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web アプリ・タグを更新して、xsd バージョンを 3.0 に設定します。 <pre data-bbox="565 720 1450 867" style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;"> <web-app xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns="http://java.sun.com/xml/ns/javaee" xsi:schemaLocation="http://java.sun.com/xml/ns/javaee http://java.sun.com/xml/ns/javaee/web-app_3_0.xsd" id="Platform" version="3.0" metadata-complete="true"> </pre>
	<ol style="list-style-type: none"> 2. 以下を web.xml に追加します。 <pre data-bbox="565 926 1450 1423" style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;"> <!--[start] WhiteList Http Verbs --> <security-constraint> <web-resource-collection> <web-resource-name>Unica_WhiteList_Http_Verbs</web-resource-name> <url-pattern>/*</url-pattern> <http-method-omission>GET</http-method-omission> <http-method-omission>POST</http-method-omission> <http-method-omission>TRACE</http-method-omission> <http-method-omission>PUT</http-method-omission> <http-method-omission>DELETE</http-method-omission> <http-method-omission>PATCH</http-method-omission> <http-method-omission>OPTIONS</http-method-omission> <http-method-omission>HEAD</http-method-omission> </web-resource-collection> <auth-constraint/> </security-constraint> <!--[end] WhiteList Http Verbs --> </pre>
283805	HCL Unica アプリケーションを実行するには、IBM Websphere Application Server 8.5.5 フィックス・パッチ 12 に IFPI85892 が必要です。
283544	<p>Oracle 12.2 データベース・サーバーで、ORACLE_HOME/network/admin/SQLNET.ALLOWED_LOGON_VERSION_SERVER にある sqlnet.ora ファイルに次のパラメーターを追加する必要があります</p> <p>DBA に連絡して、このパラメーターの適切な値を入手してください。詳細については、次のリンクを参照してください。 https://docs.oracle.com/database/121/NETRF/sqlnet.htm#NETRF2016</p>
N/A	Campaign と Watson Marketing Assistant との統合は Internet Explorer ではサポートされません。

表 7. Unica Campaign の既知の制限 (続く)

ID	既知の制限
286705	操作モニターから Campaign フローチャートを一時停止すると、Campaign 履歴タブで 2 つのイベントが生成されます。
287100	Campaign を削除しても、履歴タブのデータが UA_History テーブルに残っています
290172	<p data-bbox="469 476 1219 504">関連するオファー・ウィンドウから正しいコンテンツが削除されます。</p> <p data-bbox="469 527 1438 590">回避策: 「表示」でテキスト、アプリおよびその他の項目のサイズを 100% に設定する必要があります。</p>
312318	<p data-bbox="469 621 1438 726">Campaign フローチャートの実行 - 完全なフローチャートとして実行すると、固有の runID が生成され、そのフローチャートが mailchimp プロセス・ボックスとともに実行されます。</p> <p data-bbox="469 749 1422 821">次回、キャンペーン・ユーザーが単一のプロセス・ボックスの実行を試みる際に、固有の runID が生成されないため、プロセス・ボックスの実行が失敗します。</p>
312296	HTTPS (無効な証明書) HIP インスタンスは、IE11 では「リンク PB」ページおよび「リンク接続の管理」ページに対してサポートされていません。
312320	<p data-bbox="469 949 1438 1094">MailChimp - 正しく構成された Link PB を再び開くと、オーディエンス値が他の形式 f239295fe8 (英数字形式) に変更されます。回避策としては、フィールドの隣にある「取り出し」ボタンを押します。このボタンをクリックすると、分かりやすい文字列の値が更新されます。</p>
312567	<p data-bbox="469 1125 1438 1270">Unix 環境で非ルート・ユーザーを使用してインストールすると、Campaign インストーラーが Insights レポート・ファイルの更新に失敗しました。解決するには、このユーザーは、インストールの完了後に Insights レポート・ファイルを手動で更新する必要があります。</p> <ol data-bbox="469 1293 1089 1373" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="469 1293 1089 1323">1. <PLATFORM_HOME>/Insights/tools/bin/ に移動します <li data-bbox="469 1346 634 1373">2. UNIX の場合: <ul data-bbox="532 1419 1438 1528" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="532 1419 1438 1484">• インストール・ユーザーに対して、-bPath=<Report folder path> への読み取り、書き込み、および実行権限を付与します。 <li data-bbox="532 1499 1393 1528">• 以下のコマンドを使用して、インストール・ユーザーに実行権限を付与します。 <pre data-bbox="548 1556 805 1583">chmod 755 insightsDBUtil.sh</pre> <ol data-bbox="469 1629 1312 1656" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="469 1629 1312 1656">3. コマンドを実行して、Campaign Insights レポート・ファイルを更新します。 <pre data-bbox="469 1682 1341 1791">./insightsDBUtil.sh -ds=CampaignDS -bPath=<Report folder path> -DBType=<databasetype> -URL=JDBC connection URL -user=<database user> -pwd=<database password></pre> <p data-bbox="469 1814 1438 1837">詳細については、UnicaInsights12_1InstallationConfigurationGuide を参照してください</p>

表 7. Unica Campaign の既知の制限 (続く)

ID	既知の制限
313216	リンク: HTTPS 上の Unica アプリケーションと HTTP 上の unica Link は、「リンク接続の管理」ページをレンダリングしません。

Unica Optimize V12.1 の既知の制限

問題	数値	説明
実稼働またはテストのポップアップ・ウィンドウ内の文字列が翻訳されていない。	問題 176920	英語以外のセットアップにおいて、実稼働またはテストのポップアップ・ウィンドウの文字列が翻訳されていません。
次のデータベース・エラーによって MailList プロセスが失敗する:ORA-00999: INVALID VIEW NAME.	問題 170951	UA_SYSTEM_TABLES で UseTempTablePool の値を TRUE から FALSE に変更します。これにより、MailList の実行が正常に終了します。
Unica Optimize が、実行中に開かれる unica_acsvr プロセスを終了しない。	問題 164875	Unica Platform スケジューラーを使用して Unica Optimize セッションをスケジュール実行する場合、複数の unica_acsvr ログイン・プロセスが表示されます。これらのプロセスは、しばらくすると自動的に終了する可能性があります。
DB2 データベース・ユーザーがシステム・テーブルを変更すると、管理者が同じ名前のインデックスを持っている場合、Unica Optimize セッションが失敗する。	問題 155876	セッションが失敗するのを回避するためには、DB2 データベース管理者がインデックスを削除する必要があります。
Unica Optimize レポートで、タイプおよびセグメントごとのオファーが思い通りに印刷されない。	問題 102889	Unica Optimize レポート内のタイプおよびセグメントごとのオファーを印刷している間に以下の問題が見つかりました。 <ol style="list-style-type: none"> 1. サイズを変更しないと、プレビュー・ウィンドウをスクロールできない。 2. 印刷の際、A4 サイズに収まるものしか印刷されない。印刷オプションでは解決できないようである。
負のスコアは不正確なルールのクレジットの原因となる。	DEF041400	負のスコアを使用した場合、「オファー・フィルタリング・サマリー」レポートのルールのクレジットは正確でない場合があります。 負のスコアを使用したオファーは、最小要件を満たすためだけに指定されます。

問題	数値	説明
オファ어의割り当てがある TCS にリンクされているセルは Optimize プロセスに表示されない。	DEF061355	Optimize プロセスが 1 つ以上のセルに接続され、その後アップストリーム・セルがターゲット・セル・スプレッドシートのプロセス (TCS) で定義されているトップダウン・セルにリンクされる場合、TCS に割り当てられているオファ어は Optimize プロセスに自動的に表示されません。TCS にある任意のトップダウン・セルにリンクしてから、それらのセルを Optimize プロセスに接続してください。それ以外の場合、Optimize プロセス内の同じオファ어를手動で割り当てるか、または Optimize プロセスを削除した後に再作成する必要があります。
片方向 SSL で ACOOptAdmin ユーティリティーを実行するにはさらにセットアップが必要。	DEF046832	セキュリティ証明書を登録し、ホスト名およびドメインを指定し、ACOOptAdmin.bat ファイルで SSL_Options を構成しないと、ACOOptAdmin ユーティリティーを片方向 SSL で使用することはできません。
unica_acosvr プロセスが停止した場合に最初の試行でセッションを実行することができない	DEF055010	kill コマンドを使用して unica_acosvr を停止して、次に Unica Optimize セッションを実行しようとした場合、次のエラーで失敗する可能性があります。「Optimize サーバー・プロセスで不明な通信障害が発生しました。」 回避策 - Unica Optimize セッションを再度実行して正常に完了させてください。